

学 校 評 議 員 会 議 事 録

開催日時	平成29年7月5日(水) 17:00～18:15	
会場	北海道岩見沢東高等学校 校長室	
出席者氏名	学校評議員 4名	学校側 4名
	尾崎 和 男 武藏 輝彦 新川 勝久 須古 哲也	校長 若林 利行 教頭(全) 小川 政博 教頭(定) 松尾 幸広 事務長 仲西 賢二
校長が意見を求めた事項		学校評議員の意見
・委嘱状の交付  ・本校の今後に求めることは何か。 		(全日制) - 生徒の学力に関する課題について、生徒一人ひとりの指導の工夫をし、全体的な学力の底上げに期待したい。 - 昨年度の卒業生は、進路実現においてよく頑張ったと思う。岩東は、地域の期待の大きい学校なので今後も頑張ってもらいたい。 - 国公立大の合格数も大切だと思うが、有名私立大への進学を目指す教育があってもいいのではないかな。 - 生徒の希望する進学先に入ることが最も大切なことと考える。 - 岩見沢市内校の学級数の減少も大きな問題であるが、今後学校数が減るのは街の衰退に繋がりがかねない。生徒減少の中ではあるが、札幌方面に出て行かなくとも「地元」に岩東あり」と思わせる元気のある学校にしてもらいたい。 - 学校数があることで生徒はどこの学校に入ろうかと切磋琢磨する。学校減は避けたいものだ。 - 企業主から聞く話では、学生時代にスポーツを頑張っていた生徒は、入社後もリーダーとしてやっていける人材になっているようだ。やはり「文武両道」だと考える。 - 岩見沢市外から来る生徒の学力の分析をしているかはわからないが、市外から来る生徒は意欲があるのではないかなと思っている。 (定時制) - 昔の定時制と違ってることから、様々な事情で入学してくる生徒のサポートをしっかりと行う地域の学校であってほしい。 - 学力を含め、社会に出たときの人材育成の場であってほしい。 - 大先輩に講演を依頼するなど、地域学や母校の歴史を知る活動を通して意欲の向上を図ってはどうか。 - 目標を持つことは本当に大事だと思う。是非、骨太の生徒の育成を継続してもらいたい。
上記のとおり会議を開催した。 平成29年7月10日 北海道岩見沢東高等学校長 若林 利行		

※別の書式により意見聴取の内容を整理している場合は、それを添付し保管すること。

※配付資料等を添付し保管すること。